



写真ニュース

発行:埼玉県生活協同組合連合会 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-11-5 TEL:048-844-8971 URL: http://saitama.kenren-coop.jp

J Aとの協同組合間提携：埼玉県産米交流会「体験田植え」 田んぼの泥の冷たさを感じながらも親子で楽しく田植え体験

田んぼの水と泥の感触を確かめながら、2組に分かれ、糸に沿って苗を植えはじめ、手際の良さも手早い、あつという間に田んぼ一面に青く輝く苗は植えられました。



5/22

12回目となる交流会に、2生協等から37家族139人が参加。田植え後は、泥んこになった手足を洗い、お米の豆知識のクイズラリー、県産米「彩のかがやき」の試食、バケツ稲の説明、餅つき体験等が行われました。今年は、あらたに米俵に乗りたり転がしたりする体験もできました。今後は、夏休みの中間観祭会、秋の稲刈りが行われます。



親子で田んぼへ行き、田植え体験

埼玉県生協ネットワーク協議会全体会 スキルアップ応援講座

日本の食料自給率からこれからの私たちの食について考えました



6/25 62人参加

講師に千葉保氏を迎え、「世界の食卓から見た日本の食」をテーマに、4~5人のワークショップ形式で学習しました。世界の4家族の1週間分の食料と食費から見えてくること、コンビニ当りからフードマイレージやパーソナルウォーターについて考え、日本の食料自給率や私たちの食のあり方について学びました。

適格消費者団体・NPO法人 埼玉消費者被害をなくす会

着物レンタルのキャンセル条項で 差止訴訟と記者会見



5/11

着物レンタル契約時のキャンセルに関する条項の使用差止めを求め、さいたま地方裁判所熊谷支部へ訴状提出し、その後、県庁記者クラブにおいて記者会見を行いました。記者会見では、なくす会の活動や適格消費者団体の説明、訴状内容に関する請求の趣旨と原因等の報告を行いました。

第1回県内消費者団体交流会

消費者団体の役割を学ぶとともに 活動交流で活力を充電



6/4

市町村くらしの会や消費者団体等の18団体48人が参加しました。「地方消費者行政と消費者団体の活性化～消費者市民社会の形成に向けて～」と題したミニ学習会後、各団体からの日頃の活動や悩みなど活発な情報交換が行われました。また、出席された3行政の方から消費者団体への期待が述べられました。

NPT(核不拡散条約)再検討会議での成果と ニューヨーク行動参加報告会

核兵器の廃絶の大切さと その道筋について学習



7/14 53人参加

5月、国連で開催された「NPT(核不拡散条約)再検討会議」の行動に代表派遣された3団体4人の方からの報告に続き、講師の日本被団協の田中照日事務局長より「NPT再検討会議での成果と今後の展望」をテーマに報告がありました。核兵器廃絶のために、私たちの声や運動をさらに広げること、そして被爆者が証言する場を設けてくださいと訴えました。



来賓の県民生活部消費生活課 上原課長



来賓のJA埼玉県中央会 細野副会長

埼玉県生協連 第39回通常総会 組合員の期待に応え、 社会的役割の一層の発揮を

6/24

はじめに、来賓の県民生活部消費生活課の上原課長、JA埼玉県中央会細野副会長よりごあいさつをいただきました。次に、伊藤会長理事より組合員の期待に応え社会的役割を一層発揮することが求められているとのあいさつ、第1号から第6号議案までの提案が行われました。議案討議後、全ての議案が承認されました。

さいたまコープ

コープ蓮田店で保育ボランティア「ゆりかご」による「親子ひろばたんぼぼ」がスタートしました

6月1日(火)のオープンイベントでは、地域の親子49組100人がお子さんを遊ばせたり、子育てのおしゃべりを楽しみました。参加者からは「最近引っ越してきたばかり。お友達ができうれしい!」などの声が寄せられました。コープ蓮田店での親子ひろばは、毎月第1・3火曜日、10時30分~14時まで、申込不要、時間内は出入り自由です。蓮田市の保育ボランティアグループ「ゆりかご」が運営しています。

ドゥコープ

「交流田んぼ」で生きもの観察をしました

6月26日、ドゥコープと「南埼玉産直ネットワーク」の交流田んぼ(さいたま市岩槻区)で、ドゥコープ組合員と若手生産者が生き物調査をしました。待ちに待った生き物調査、目を皿のようにして田んぼを覗き込む子どもたちの様子は、まるで宝探しでもしているかのような様子でした。子ども達はゲンゴロウの幼虫やヤゴ、アメリカザリガニなどを次から次に捕まえ、インストラクターと一緒に分類しました。

生活クラブ生協

3万人記念講演会「お弁当の日に込めた夢」

生活クラブ埼玉の3万人達成を記念し、竹下和男氏講演会「お弁当の日に込めた夢」を5月24日埼玉会館で開催し、約380名が参加。竹下氏は、香川県の小学校の校長の時に、「決して親は手伝わなくて下さい」と「弁当の日」を始めた方です。「自分だけで弁当を作ることにより、作る人の気持ちや、社会とのつながりまで意識できるようになる」というお話は、涙あり、笑いありの楽しいものでした。

竹下和男氏(写真中央)、生活クラブのパンの生産者(株)味牌の荒木氏(左)、「玄米せんせいの弁当箱」などを執筆されている漫画家の魚戸おさむ氏(右)

埼玉県勤労者生協

沃土会 春の収穫祭

6月5日、深谷市岡部にある野菜の産直産地「沃土会」で、組合員とその家族130人が集い、葉つきにんじん、キャベツ、ラディッシュ、ほうれん草などバラエティ豊かな春野菜を収穫しました。収穫祭の楽しさはなんとといってもランチタイムをはさんでの生産者との交流。18種類もの旬の野菜を取り入れたアラカルト料理に舌鼓を打ち、根っこが格闘した畑を思い出しながら野菜クイズにチャレンジしました。

広がる 県内生協の 多彩な活動

この紙は再生紙を使用しています。印刷は環境にやさしいインクを使用しています。

医療生協さいたま

体力低下予防に新メニュー～レインボー健康体操～

体力づくりの新メニューとして「レインボー健康体操」(明治学院大学名誉教授・高橋賢一氏考案)を普及することになりました。レインボー健康体操は、筋力トレーニングのほかにストレッチや脳トレ体操なども組み合わせ、座ってもできる高齢者でも可能な体操です。指導者育成の「サブインストラクター養成講座」に職員4人が参加、埼玉西協同病院地区中新井第1支部では、さっそく普及がはじまっています。

コープネット事業連合

コープネット・佐渡トキ応援プロジェクト

コープネットとコープにいがた、新潟県佐渡市は4月30日、佐渡のトキ保護活動の応援を目的とした連携協定を締結。「CO-OP新潟佐渡コシカリ」を対象に、販売したお米1kgにつき1円を「佐渡トキ環境整備基金」に寄付する「コープネット・佐渡トキ応援プロジェクト」を立ち上げ、トキの生息場になる田んぼづくりに役立ちます。また、農業の大切さをお知らせし、交流を通じて理解を深め合います。

協定を記念し、佐渡市、JA佐渡、組合員理事と一緒に田植えを行いました

子どものその保育生協

年長組 泣いたり笑ったり、感動がいっぱいの合宿

7月2日~3日に年長組の合宿を行いました。事前にクラスでよく話し合い、夕食のメニューを考え、仕事を分担し、包丁の使い方を何度も練習。当日はカレーライスの材料になる、玉ねぎ、にんじん、じゃがいもなどを上手に切り、かまどでご飯を炊き、焚き火でカレーライスを作るなど、子どもたちにとっては初めての、新鮮な体験がいっぱいでした。夜はキャンプファイヤーもあり楽しい合宿となりました。

埼玉大学生協同組合

春の健康祭に学生・教職員300人が参加

5月17日(月)~20日(木)、春の健康祭を行い約300人が参加。栄養士さんによる「食生活相談会」、食堂内ブースでの学生委員会による「アルコールバッチテストやヤニ検査」を実施。タバコやお酒の危険についての呼びかけ、身身体重計や体脂肪計、血圧計などを設置し、栄養相談と共に今の自分の健康状態を参加者に知ってもらいました。また、食生活や栄養、運動、睡眠などの提案冊子を配布しました。